

音楽療法総合演習

[演習] 第4学年 後期 必修 3単位

《担当者名》 浅野雅子 asanom@hoku-iryo-u.ac.jp 近藤里美

【概要】

これまで学習した音楽療法に関する知識と技能をもとに、音楽療法活動の計画および実践の演習科目である。音楽療法を実践のための対象者のアセスメントとニーズに応じた音楽療法の実施計画、実践、振り返りの循環学習を通じて、音楽療法に必要な基礎的な実践力を習得する。

【学修目標】

臨床の場面で実践できるように音楽療法の介入方法の選定について理解することができる。

1. 対象者のアセスメントをもとに実践の計画や介入方法について説明できる。
2. 対象者のニーズに応じた音や音楽を療法的に活用できる。
3. 対象者および介入者の相互的視点から音楽療法実践を振り返り評価することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	講義の進め方、概要、評価の説明	浅野雅子 近藤里美
2 5	音楽療法の立案 メンタルヘルス領域	・対象者のアセスメントから実践の目的を設定する。 ・目的に向けた実践方法を計画する。	浅野雅子 近藤里美
6 13	音楽療法の練習 メンタルヘルス領域	・実践に向けた役割分担と練習を行う。	浅野雅子 近藤里美
14 18	音楽療法の実施 メンタルヘルス領域	・音楽療法を実施する。	浅野雅子 近藤里美
19 22	音楽療法の振り返り メンタルヘルス領域	・対象者および介入者の視点から、実践を振り返り 評価点、課題点を抽出する。	浅野雅子 近藤里美
23 26	音楽療法の立案 高齢者領域	・対象者のアセスメントから実践の目的を設定する。 ・目的に向けた実践方法を計画する。	近藤里美 浅野雅子
27 34	音楽療法の練習 高齢者領域	・実践に向けた役割分担と練習を行う。	近藤里美 浅野雅子
35 39	音楽療法の実施 高齢者領域	・音楽療法を実施する	近藤里美 浅野雅子
40 43	音楽療法の振り返り 高齢者領域	・対象者および介入者の視点から、実践を振り返り 評価点、課題点を抽出する。	近藤里美 浅野雅子
44 45	まとめ	・音楽療法実践についての評価と課題を整理する。	近藤里美 浅野雅子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

平常点 50%、各実践の振り返りレポート20%、最終レポート 30%

【教科書】

適宜資料を配布する。

【参考書】

飯森真喜雄、坂上正巳 「音楽療法(芸術療法実践講座4)」 岩崎学術出版 2004年

白川ゆう子、二俣泉 「音楽療法をまなぶ」 アカデミア・ミュージック出版 2019年

菅田文子 「弾き語りキーボードセッション1 音楽療法の必須100曲 高齢者編」 あおぞら音楽社 2009年

菅田文子 「弾き語りキーボードセッション2 音楽療法の必須100曲 おとな編」 あおぞら音楽社 2010年

菅田文子 「弾き語りキーボードセッション4 音楽療法の必須100曲 ノスタルジー編」 あおぞら音楽社 2014年

【学修の準備】

- ・実際の体験を通じて習得する知識と技能を重視するため、積極的に参加すること。
- ・音楽療法の実践を計画するにあたり、アイデアの創造や練習に十分な時間(20分以上)を費やすこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP3) 作業療法士として必要な化学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

近藤里美（音楽療法士）、浅野雅子（作業療法士、音楽療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関および介護保健施設での実務経験を活かし、担当の演習を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している